

# あゆみ通信

VOL. 112

あゆみの会(真宗大谷  
派大阪教区第2組同朋  
の会推進員連絡協議会)  
会長 浪花 博  
広報 本持 喜康

## 共に学び共に念仏の道を歩む 第2組第33回同朋大会盛会に



2018年3月3日(土) 午後1時30分から第33回第2組同朋大会「真宗にであう講演と弦楽四重奏のつどい」が難波別院同朋会館講堂で開催され、組内外の住職・寺族・門徒・推進員の94名が参加された。

池田英二郎住職(宗恩寺)の進行で第1部が開会、真宗宗歌斉唱、そして海老海恵幸組長の調声で勤行があり、同組長から開会の挨拶が行われた。休憩後は第2部で、華やかな弦楽四重奏が、相愛大学音楽部の津田七愛さん、村井文香さん、津田咲彩さん、田中夕祈さんの4人メンバーで、モーツァルトから「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」や映画音楽「マイフェアレディ」坂本九の「上を向いて歩こう」、美空ひばりの「川の流れるように」や童謡「この道」そして東日本大震災復興ソングの「花は咲く」そして仏教讃歌の「恩徳讃」が演奏され、しばしの心の安らぎの時間となった。休憩後、第3部として講

題「本当に大事なこと」を浄土真宗佛光寺派大行寺住職の英月(佐竹英里子)先生から自身の境遇やアメリカでの思いもよらない仏縁との出会い等の和やかなお話の中にハッとさせられることがありました。(要約は2面)

最後に第4部は閉会式で、第2組門徒会中嶋ひろみ会長から挨拶をいただき、恩徳讃を斉唱して終了した。(「銀杏通信」から引用)

### あゆみの会第1回例会 & 第2組門徒会員研修大会合同研修会

日時 2018年4月13日(金)  
午後1時30分～

会場 南照寺(天王寺区茶臼山)

講題 「念仏者とは」

講師 友澤 秀三先生  
(南照寺 住職)

### 第2組聞法会「共に学ぶ『正信偈』」スタート

日時 2018年5月12日(土)

会場 行圓寺(西成区山王)

内容 お勤め、法話

講師 新田修巳

先生  
(平野区

正業寺)

参加費

500円



## 6月26日(火)の「第2回例会」は了安寺で開催決定。

### 諦めきれない

私事を続けて、お許し願いたい。亡くなった娘が入院した11/8から、だんだんと痩せていき、どんどん元気が無くなり、食べられなくなっていく娘を見て「死」とはこういうことだと覚悟はしたつもりであった。でも、実際に直面してみると、本当の覚悟は出来てなかったことに気づく。煩惱具足の凡夫である。

今頃になり、友達感覚の母と娘の強い関わりではないが、特に娘が病気になってから、娘との話がLINEやメールや言葉で沢山出来たなと思いだしている。他人への気遣いが出来る子であった。「膝や腰が痛い」とぼやいていると病床から娘が「肥え過ぎやねん、痩せなさい」「重いリュックをもちなさんな」とベッドから声が飛んだ。

いよいよとなった時も、弱弱しい声で「寒い時期に、皆に迷惑をかけるから、春まで頑張ろうと思ったけれど、やはり、あかんね。皆に謝っておいて」と。彼女の最後のメモに「一日一日を大切に生きてください」「私に関わってくださったすべての人に感謝します」と書いてあった。最後まで健気に生き、諸仏となった娘に、今は拍手を送ろう。「良く頑張ったね。阿弥陀さんのそばで、ゆっくりして」と。これまでを感謝して、ひたすら南無阿弥陀仏のお念仏を称えることに専念するわと。生きることの大切な意味を娘から教わった気がする。合掌。(本)

## 本当に大事なこと

### 第2組同朋大会の法話を聞いて

細川 克彦(佛足寺)



英月先生は、初めに「本当に大事なことってなんでしょうね?」と問いかけられた。私たちは状況や自分の都合に応じて、大事なことが変わっているのではないか。親鸞聖人は生死、つまり都合の善し悪しから解放される道に出遇われ、それを真宗と頭かにされた。



先生はお寺のご出身であったが、29歳の時に自立しようとアメリカに行かれた。何年かたった

時、ある友人が飼っていたペットが死に、死ぬほど落ち込んでいるのを見かねて葬儀をした。1周忌の後、その友人は大変感謝し、他の友人たちからも仏教の集いをしようと持ちかけられ「写経の会」を始めることになった。「正信偈」を写経しようと言うことになり、実家のお寺から資料を送ってもらったが、自分は「南無阿弥陀仏」の意味も分からず、浄土も本願も何も分かっていないことをその時気付いた。

「正信偈」では七高僧が出てくるが、写経の後の茶話会では教義を学ぶというより自分と向き合う時間を持ってほしいという願いから、龍樹クンとか源信クンとか隣の人の様に読んで話し合ったところ大変盛り上がりたりした。そのようにして会を続けていたが、教えの一端に触れたのだろうか、周りの人から変わってきた。そんな人たちを見て自分も変わってきたように思う。4人から始めた「写経の会」は3年ほどしたら80人ぐらいの人が参加するようになっていた。自分はその後、事情があって帰国したが、今でも続いている。ふだん自分の都合に振り回されているけれど、そんな都合よりももっと大事なことがあると出遇わせてもらった。それを真宗と。本当の、つまり普遍の依り処である。どんな状況でも私が私として、生き生きと生きて行くことの出来る。いただきたいのちに向き合わせていただくことができる。

仏を念ずるということはどういうことか。真実に出会わせていただくことである。それと同時に真実たりえない自分自身に出会わせていただく。「南無阿弥陀仏」と仏を念じることによって、自分の都合を念じている自分に出会わせていただく。そんな時、ハッと闇に光がさす瞬間ではないか。でも、悲しいかな、また闇に覆われてしまう。だからこそそのお念仏であり、だからこそその聞法ではないのかと、終始熱く話された。終わり。(細川氏の要約に感謝。(本)

## 第2組門徒会総会 役員は全員再任



2018年3月16日(金) 午前11時30分から天王寺区の了安寺で第2組門徒会総会が、門徒委員8名が参加して開催。海老海組長の挨拶を受けて真宗宗歌で開会。中嶋ひろみ前会長が進行を。委任状を含め成立を確認の後、今期の役員について全員の再任を提案し承認された。また、2017年会計報告と監査報告を会計と監査が報告、了承された。引き続き新会員が参加されたので、門徒会とは、何をするのか、第2組ではどんな仏事をしているのか(年間行事)説明された。休憩後お齋をいただきながら日常の仏事や第2組の寺院、直近の行事などが話し合われ、恩徳讃を斉唱して終了した。

### 第2組門徒会役員紹介 (2018年～2020年)

会 長 中嶋ひろみ(光照寺)  
副会長 吉田 雄彦(法山寺)  
同 本持 喜康(即應寺)  
会 計 本持 喜康  
常任委員 浪花 博 (法山寺)  
(監査)  
常任委員 横井 淳 (行圓寺)

\*教区委員は、中嶋と吉田が  
\*事務局と広報は、本持が担当

第2組並びに第2組寺院の興隆に第2組寺院住職と共に頑張ります。よろしくお願いします。